

感激の旅

私が現在の仕事に就いて間もなく、国際交流協会への入会案内があり、その流れの中で自然にこの瓦房店訪問団に参加しようと決めていました。

この旅の印象を一言で表すならば「感激の旅」でした。特に瓦房店市の中学校と小学校を訪問し、その勉強ぶりを見学させて頂いた時、私たちを見る目の輝きに圧倒されそうになったこと、その後の歓迎セレモニーに至っては、体一杯使ったの歓迎ぶりに、久しぶりに感激の涙を流しました。

教育プログラムについても自治体や学校にかなり自由裁量が与えられているようで、どちらが民主主義で共産主義か逆のような気も致しました。

産業面に於いても大都会大連を中心にその衛星都市瓦房店市と、役割分担を決めた大規模開発が進行中で、中国東北部は農村社会というイメージからハイテク工業社会へと変貌をとげつつあり、日本もよほど頑張らないと追い越されてしまうのではと危惧されます。

最後に今回同行された方々とは面識のない方も多かったのですが、皆さんいい方々で楽しく「記憶に残る旅」をさせて頂いたことに感謝致します。

.....

友好都市訪問団に参加して

7月9日仙台空港より一路訪問団の中国に出発、大連を經由し夜遅く青島のホテルに到着。翌日、青島市内観光海岸沿いにある大きい音楽広場は市民の憩いの場とし、手作りの楽器や音響機器でお年寄りが自慢げに歌い躍りに楽しんでいる姿を見るに、一日中優雅に過ごしているように思われます。

ガイドの話では、2008年のオリンピックで、ヨット競技などの主会場に決まっているとのことで今市内は、新空港がオープンし五輪ムードに向け活気あふれていました。

大連市内、中山広場、天津街などを見学後バスで移動、夕刻瓦房店市にあるマイクロ食品加工工場にパトカー（公安）先導で到着し、現地人の社員が総出とバクチクで大歓迎を受け社内で休息し、瓦房店市役所に向かいました。

日曜日でしたが、除市長が「100万市民を代表して歓迎します。」とあいさつし、海外より種々の企業誘致に全身を注ぐことを力強く話されたことに共鳴しました。瓦房店市主催の歓迎会では両市長のあいさつではじまり地元歌手の出演で歓迎会を盛上げました。食卓には、郷土料理 30種類以上の料理がつぎつぎ運ばれてくるのには驚きました。

4日目（12日）は瓦房店市の幹部の案内で企業誘致する広大な敷地が整地された現場での説明で工場地区、商業地区を分離して5年後の完成に向け企業誘致を展開しているとのことで、スケールの大きさには圧倒されました。

郊外にある小学校訪問では、グラウンドに生徒総出で猛暑の中でもマスゲームなどを披露しながら、大歓迎を受け、天童市農協土屋組合長が20回程の中国訪問で子供たちが土間の勉強している姿を見るに教育施設の遅れを感じ、私財を投じて一部三階建の校舎を寄付した事を初めて聞いて、教育に国境はないことに訪問団一行感銘を受けたことと思われます。市内でも大きい中学校では生徒たちが楽器演奏、躍り、書道を披露し、お土産に生徒たちが書いた作品をどの子供たちもきれいな澄んだ目でのこにこと一行に手渡している姿に感動しました。

今回の訪問により相互交流が緊密な関係を保ち、両市発展を願わずにはられません。

遠藤登市長と二度瓦房店市を訪問して感じたこと

一度目の訪問は『天童市民のつばさ』として大連瓦房店北京訪問団長遠藤登市長、副団長佐藤助九郎氏で一行25人でした。平成12年10月27日仙台空港より大連へ飛んで、大連シャングリラホテルに宿泊し、翌日、大連スターリン広場等市内観光後、ミクロの現地工場を視察し瓦房店市立実験小学校訪問、土曜日にもかかわらず全校児童400人がプラスバンドで熱烈歓迎。書道の授業を視察したが、熱心なものと皆上手なのに感心した。瓦房店市主催の歓迎レセプションがあり、当時の孫学斌瓦房店市委員会書記始め幹部から熱烈歓迎。今回二度目で、瓦房店市の変わり様に驚きを感じた。道路が拡幅され、建設ラッシュと徐長元瓦房店市長はじめ幹部の方々が自信に満ちた熱烈歓迎に胸が打たれた。工業団地の造成もスケールの雄大さと先々を見込めた工業都市造成計画に感心した。私は中国には何度も行ったが、どこも活気に満ちているのが印象的だが、瓦房店市も日進月歩で発展は間違いないだろう。

.....

熱烈歓迎に仰天

私は、昭和15年北京で小学校に入学しました。平成4年山形みどりの会日中友好親善訪問団(団長 遠藤登衆議院議員 団員90名)の一員として、46年ぶりに北京の地を踏みました。また、平成10年には、市制施行40周年記念訪中団(団長・遠藤登市長、団員100名)に参加、そして今回と遠藤団長の訪中団には三回参加したことになります。

父が在籍したことのある大連満鉄本社跡などを車窓から観光し、瓦房店市の出迎えを受けて103万の友好都市へ入りました。

同市に立地するミクロの関連会社に立ち寄り、その後市庁舎で歓迎行事を受けました。その夜の歓迎会に山盛りのご馳走を出され本当にびっくりしました。翌朝の歓送朝食会もですが、各テーブルに市や党の要人と通訳がつき、歓待していただきました。

翌日、市内の中国最大のベアリング工場や工業団地、商業団地を見学し圧倒されました。

土屋農協組合長の寄附金で建ったという希望小学校での熱烈歓迎ぶりも思い出です。

.....

旅の印象

中国特有の自転車の洪水が見られず、一瞬他の国に来たのではないかと錯覚しました。2008年のオリンピックのために、中国は今いたるところで開発が進み、青島市の新空港の広さ、道路の広さ、まわりはきれいに出来ており驚きました。

瓦房店市のパトカーの先導で、瓦房店市内「大連天峰食品」に着くと、日曜日にもかかわらず、多数の社員の出迎えを受けて感激。

お土産を買う店で値引きにつきあってくれたり、ミクロの後藤社長の若々しいナビゲーターぶりに感心しました。

いろいろな面で楽しく、気持ちよい旅でありました。ありがとう。

ただ一つ残念なのは、社長さんおすすめの大連ドロボー市場を歩くことが出来なかったことです。

.....
平和ぼけ、目を覚ませ政治家、

この度、瓦房店市友好都市訪問団に参加して、中国に行って来ましたが、目覚しい発展ぶりには、目を見張る物がありました。特に、綺麗で近代的なローカル飛行場、また古い建築物を大事に使っていて、どの町並みもゆとりがあり、人もおおらかに見え、生き甲斐が感じられる、特に工業団地の規模の広さ、14キロ四方、1社当たり1万5千坪~2万坪、指導部の頭の良さ、設備と技術の導入、それに失業対策、50年無税の餌で世界に呼び掛けている。未恐ろしい国である。また学校教育子供1人1人が、規律良く行儀良く、真剣に勉強している姿を見て、戦前の日本を思い出す。国に忠に、親に孝に、夫婦相和し、朋友愛信じ、と共に、忠節、礼儀、武勇、信義、質素、この9カ条を基本に、義務教育の間、正しい人間作りをする事が一番大事なのではないだろうか。

政治家は、国民と国を幸せにする責任と義務がある。先生は威厳を持って、正しい人作りに責任と義務がある。警察官は威厳を持って、善良なる国民の生命と財産を守るのが責任と義務である。何か今世の中、肝心なことを忘れ、事なかれ主義、無責任が多い。これでは国が滅び、中国に出稼ぎに行かないと生きては行けなくなる。今のうちに、子供を多く産ませる方法を早く手を打って、正しい、有能な人間作りに着手すべきである。金は生きている時に使える物であって、死んで終われば、何の役にも立たぬ、生きている時に使ってこそ金は生きる。中国は凄、油断禁物、日本国初心に帰って、頑張りよう。

日本の国に、企業を残そう。技術を残そう。仕事を残そう。

謝謝 謝謝

1. 7月9日(金) 出発

天童市役所前広場に11時30分集合し、天童市の関係者多数が見守る中、友好都市締結後初の公式訪問団となるが、市民レベルで積極的に日中交流を進めてほしい旨、天童市長のあいさつにより結団式・出発式を終了。

天童市長夫婦とJA てんどうの土屋組合長などは大連で合流することから、一行36人、12時に天童市を出発する。

仙台空港では会議室に入り、第一班・第二班の班長が紹介され、期間中の注意事項を再度確認し、全員の無事帰還を祈念して3時30分大連に向かう。

大連到着後、乗り継ぎ便で北京経由・青島へ。

青島空港は、手狭となったことから改修工事に取り掛かり、5月に新空港がオープンしたばかりで、すばらしい空港であった。

また、空港から市内までの道路は片側3車線の弾丸高速道路が通り、発展途上国とはいえ、中国のスケールの大きさに改めて感心する。

乗り継ぎ、乗り継ぎでホテルに着いたのが夜中の12時。

遅い夜食を頂きながらの、翌日の朝食、出発時間の確認となり全員疲れのピークといった感じであった。

2. 7月10日(土) 青島へ

黄海に面し、天然の良港であることから、ドイツが青島を租借していた19世紀に作った町、欧風建築や教会が多く見られ、異国情緒豊かな町である。

午後からは、青島ビール工場や、高台にあるドイツの砲台跡などの視察を行い、経済界はつくと観光立国の現状を肌で感じた。

現在では、気候の良さから観光開発が進む一方、政府要人や、億万長者の避暑地として有名で、高層ビルも並び、変化している中国の都市化を見ることが出来、これが中国なのかと目を見張るほどの繁栄である。

翌日、8時の大連行き飛行機となることから、全員早めの就寝となる。

3. 7月11日(日) 大連より瓦房店市へ

青島から40分程度で大連に到着。

中国の推進する解放路線14都市の経済開発特区の中でも、特に重点開発地区となっている。

大連は不凍港で上海に次ぐ国内第2の規模を誇る貿易港でもあり、日本に関わりのある企業や建物が建ち並び、まだまだ大きく変化していく緑の多い都市である。

日本は大連にとって、輸出入額の40%を占める重要な相手国でもある。

大連市内より110kmの瓦房店市に向かう途中、大連空港から中国公安局のパトカーで先導されてくる天童市長・土屋組合長を、片側2車線の一般道路で待ち合わせし合流後、瓦房店市庁舎へ向かう。

瓦房店市庁舎で徐市長・王副市長をはじめ、市の要人から熱烈的な歓迎を受け、8時頃からの歓迎晩餐会となった。

歓迎晩餐会は、乾杯、乾杯の熱烈的な歓迎と地元有名歌手のカラオケパーティーとなった。

翌日も公式行事とのことで、市の公式行事専用ホテルで全員就寝となる。

4．7月12日(月)瓦房店市・公式行事

ホテルを9時00分に出発、(昨夜の熱烈な歓迎で、やや疲れ気味)

中国公安局のパトカーで先導され、しかも、交差点・交差点での警察官による交通規制で、スムーズに瓦房店市の西部開発区と商業開発地区を視察。

市内の第四中学校を公式訪問する。

この中学校は思想・行儀・学業・工芸などの一芸等に秀でた生徒のみ受け入れ、特別教育を行う学校とのことで、生徒先生より、これも熱烈歓迎を受けた。

市の公式行事専用ホテルに戻り、歓迎の昼食会が開催されたが、昼から乾杯である。

昼食後、JA てんどうの土屋組合長が資金援助し、建設された小学校を訪問、天童市長、名誉校長と呼ばれている土屋組合長だけでなく、我々も大歓迎であった。

学校訪問を終え、公式行事も無事終了し、市・要人と中国公安局のパトカーと分かれて一般道路をバスで約2時間、大連に戻る。

夕食は地元の名物料理店・[天店漁港]での会食である。美味である。

会食後、自由行動となる。

5．7月13日(火)大連より天童へ

早朝のホテルの窓から、大連港と東京の上野駅を真似て作られた大連駅が、霧に林立する超高層ビルと立体道路を挟んで見える。

いつまで中国の高度成長は続くのか、バブルが弾けると世界経済も重病になるといわれる現在、隣国の大国・中国と日本は親に友好関係を築いて行かなければならないと考える霧の大連である。

朝食後、大連空港に向かう。出国手続き後、各自がお土産の追加を購入し、帰路日本向け機内に乗り込む。

予定通り15時30分、仙台空港到着。

入国手続きを終え大型バスにて天童へ向かうも、心はずでに、それぞれ家族のもとにあり。

6．所感

・日本海を挟んだ隣国・中国

古くは中国に学び、近年は侵略し、再び友好を誓い合った偉大な中国の現状

そこに暮らす人々のパワーと生活力、広大な国土、56の少数民族を含め人口13億人とも、14億人ともいわれ、世界人口の5分の1を占める中国の底知れない国土の一端を自分の目で見、肌で感じてきたことは大変有意義であり、JA てんどうの土屋組合長の「教育の大切さ」と、「人作り」の信念に基づく学校建設には大変感動した、国と国を超える友好親善と考えます。

中国の、ほんの一端を見たに過ぎませんが、最近の中国は、経済的にも政治的にも発展しているが、地方に行けば、なお貧しい人々が多く、必死に生きている姿は我々日本人も見習うべきことと考えます。

中国瓦房店訪問雑感

近年、製造業の海外シフト化による国内製造業の空洞化が問題になっています。この事は製造業に携わる者として、重大な関心事のひとつとなっております。特に昨年より、我々の使用している素材が値上がりしております。これらの原因は中国の異常とも言える発展に起因しています。2008年のオリンピックを控え、半年で様相が変わると云われる中国の現状を知る事は、直接の関わりはなくとも、誰でもが関心を寄せるものだろうと思います。企業人として、常日頃機会があれば何度でも行ってみたい、行かなければならない国のひとつであろうと思っていました。こんな事から今回の訪中に参加させていただきました。

青島でのビール工場見学は興味のあるコースでした。自分で作る手作り自ビールが趣味のひとつであるため、いろんな各地の地ビールを試飲し、いろんな国々のビールを飲み比べるのも大好きで、今回青島ビールを飲めるのも楽しみのひとつでした。歴史を感じながら工場で飲んだビールは、前夜遅くビンで飲んだビールとはまた違った一段とおいしい味がしたように感じました。青島ビールの感想は、ドイツビールのハイネケンを思い出させるような味がしました。

特に、濾過する前のビールはヴァツェンのような薫り高い飲みやすいものでした。当地では1カートン単位で注文するのももっともだという感じがしました。ただ、ビール作りは水が基本だといわれており、日本のメーカーでは地下水をくみ上げて使用するのが一般的ですが、(自分でも仕込む時は良い水を求めて県内をうろつき回る)青島ビールでは上流ダムからの水を利用していると聞き、ちょっと興奮したような感じがしました。というのは最近、日本の子供が描く川の色はもちろん水色ですが、よその国の子供は茶色に染めると言う事を知ったからかもしれません。でも、飲めば解りません。美味しかったの一言です。

青島滞在中、夕方の自由時間に、午前中散策した青島湾景区にひとり行ってみました。海風が心地よく、週末という事もあり大勢の一般市民が、凧上げや釣りやゲームにと思い思いに楽しんでいる風景をみると、日中周った戦跡の思いも重なり、今は平和なんだなと言う思いが湧いてきて、見ているだけで幸せな気持ちになってきました。平和って良いですね。

大連の街並みは想像していた以上に雄大で綺麗だという感じがしました。以前、広州へ行った時は近代的な建物が多く、新しい都市という感じがしましたが、大連は対称的に落ち着いた歴史を感じさせるものでした。随所で建物の建設が行われており、活気ある様子がうかがいしれました。今回は、街に散策に出る機会がなく残念でしたが、最終日の夕方、ホテル隣の百貨店を覗いてきました。日本資本という事もあるかもしれませんが、品揃えは多く売り子の対応も感じが良く市民生活の良さを感じさせるものでした。5つ星ホテル傍にある店では割り引いて考える必要があるのも解りますが。

瓦房店での歓迎行事はありがた迷惑と思えるほどでした。その中で、どのような製造工場があるのか、興味あるところでしたが、ベアリング工場を見学できたのはラッキーでした。工場に入って油の臭いがした時は、親近感を覚えてしまいました。通常ベアリングを使用しているところは見えない為、我々にはあまり馴染みはありませんが、大小各種装置、車なども含め重要な製品に使用されており、生命の安全さをも左右する重要な部分のひとつです。従って、どれ程丸いかを表す真円度精度は1/1000ミリを要求されるものとして、部品製造は難しいもののひとつと云えます。工場内の環境は？作業者の資質は？加工機械の精度は？焼き入れ・磨き工程は？製品の出荷先は？などいろんな疑問がりましたが、総じての感想は、広州の部品工場を見たときと同様、特に近代的な機械を使ってというよりは、人手を掛けて仕事をしている様子が伺えました。中国は人口の多さから仕事する場を確保する事が先決問題だとすれば、近代的な工場よりも人手の掛かる仕事がある工場が必要ではないのかとったりもしています。こうした点からも国内の製造業としては、より高品質で付加価値の高い製品を作る事で、差別化できるのではと考えています。現在、県内では車関係の部品製造が賑わっており、これらの部品は中国や東南アジアの組立工場に供給されています。こうした状況は日本製部品の品質が見直されてきているのではと思います。これまで製造業の空洞化に戦々恐々しておりましたが、これからは中国を含め東南アジアの国々とは競争し合いながらも共生、共存していく「共合」の時代がきているのかと思っております。蛇足になりますが、中国から帰ってまもなく、お得意先の中国の合弁会社から当社に見学に来られましたが、当社の製品を見て彼等は「お金、お金」と言っておりました。確かにお金さえだせば良い機械、良い刃物は買えますが、技術

や工夫は買えません。長年蓄積してきた技術やアイデアこそ我々のノウハウであり財産であることを強く実感し、ここ山形でのもの作りに自信を持った出来事でした。

これまで何度か中国をはじめ東南アジアの国々に行っておりますが、いつも思う事は 30、40 年前の日本にはあったであろう「活気」が感じられる事です。行くたびにその元気を貰って帰ってくるような気持ちになります。今回の訪中もそうした意味では特に、中学校、小学校を訪問した時の生徒達の明るい表情には元気づけられるものがありました。日本の常識が世界の特に東南アジアの常識でないことを、もっと日本の若者に理解してほしいと現地に行くたびに思います。私共も旅行する時は 5 つ星ホテルでないのだめという程驚沢になってきましたが、できるだけ郷に入れば郷に従えの精神でこれからも海外旅行を楽しみたいと思っています。いろいろな発見のある中身の濃い今回の訪中ではありました。これも、お世話頂いた関係者と同行された皆さんのお陰でもあります。機会があればまたよろしく願い致します。本当に有り難うございました。

謝謝 謝謝

.....

目の輝き

中国瓦房店訪問団に参加し、毎年中国観光をしている夫について、長年の念願が実現した。あこがれの中国旅行である。最も印象深かったのは、瓦房店市第四初級中学の訪問だった。暑い中、百人に近い生徒が校門から正面入り口まで二列にならび、花を両手に振って声を揃えて、「熱烈歓迎」の出迎えには度肝を抜き、鳥肌が立った。集会所での、踊りと歌、楽器演奏の披露、書道のみやげなど本当にうれしい限りである。大事に持ち続ける品だ。各教室の事業態度も、熱心の一言につき、一学年 70 名、12 クラス。だらけなどみじんもなく、目の輝きもない日本の生徒たちに将来の不安がよぎった。昼の記念会食時に校長から、登校拒否やいじめは皆無で、学校好きで将来の夢や目標をしっかりとっており、入学時から卒業まで同人数だという話を聞き、驚いた。

接したホテル従業員、ウェイトレス、旅行関係者すべてが、仕事にエネルギーをそそぎ目の輝きが、現在の日本人と違うように思えてならなかった。

.....

再会「王さん」

初めての中国。「大連天峰食品有限公司」を訪問した時の事です。「王さん！」驚きと感動で、胸が熱くなりました。二年前、天童の「ミクロ」に、数人の研修生が来られていた時、私は国際交流会員として、夏祭りの時一緒に踊り、反省会では、中国語の発音を直していただいたり、本当に愉快な一時を過ごしました。その中のお一人「王さん」を出迎えの方々の中に発見した時は、思いがけない再会に、抱き合うのが精一杯でした。感謝の気持を中国語で伝えようにも、自分の語学の未熟さに、もどかしさを覚えた事も否めません。天峰食品公司、学校、市政府の方々の熱意あふれる歓迎は、終生忘れないと思います。もっと語彙を増やし、中国語で交流が出来たら、楽しさも倍増すると思います。初めての中国訪問を期に、改めて語学の楽しさ、大切さを実感し、これからも一層楽しく学べそうです。

后会^{まごいり}有期 (いつかまたお会いしましょう。)

発展途上の中国瓦房店を視察して

今回天童市の友好都市締結記念、中国瓦房店訪問団に参加することが出来本当にありがたく、多くの参考となることを得ることができました。

私は、今回で3回目の中国旅行ですが、行く度毎に発展している様子がかがわれ、素晴らしいことだと感じられました。

特に、瓦房店については、街作りに対する開発の意欲は素晴らしいものがあり、工業パークについては、自分の目を疑う程の広大な地域を開発中で、数年後には大工業地域になるだろうと感じてまいりました。また、南賢区の整備については、模型により説明をうけましたが、近代性と効率性のある整備計画には感服いたしました。素晴らしい町が出来るものと思われまます。

また、教育文化面についても学校教育における英語教育・文芸品の作成・書道等がすばらしく教育文化に対する熱意がかがわれました。

最後になりましたが、今回の訪問の対する瓦房店挙げて市長さんはじめ市当局・中学校・小学校の熱烈歓迎には感激いたしました。

他に、中国高齢者が早期、公園及び広場に集まり太極拳・体操・踊り・ダンス等各グループごとに、いきいきとして行動していることについては、天童市でも各地区毎にいきいきサロンを進めていることでもあり、見習うべきものがあると感じました。

市民訪問団とは

平成14年の友好都市協定の締結を記念して、今回市民訪問団が瓦房店市を初めて訪れたこととなりますが、その訪問に同行することができ大変うれしく思います。また、大きな問題もなく、無事に帰ってくる事ができて、ほっとしたところです。団員の皆さん本当にありがとうございました。

私にとって、不安だらけで7月9日に天童を出発した訪問団の旅でしたが、その不安は日本を抜け出し中国に着いた頃にはすでに頭になく、広大な中国の大地のもと、素晴らしい団員の皆さんに恵まれ、大変有意義な訪問となりました。瓦房店市での子どもたちからの熱烈な歓迎と、その明るい表情が、一番心に残っています。

市民訪問団の良さというのは、訪問が終わってからも団員同士の交流が続いていくことではないかと思えます。街角で「あの時瓦房店に一緒に行ったずねえ～」というような会話が聞こえてくるよう、これからも団員同士の交流が続いていくことを願っています。

.....

今の都市部の中国を見て

青島の30m程の大通りのひっきりなしに走る車の流れ。車優先で車道は中々渡れないと言われたが、一人の若い美人が少しゆるやかになった流れの合間に歩み入った。急がず左右をチラ確認しながら。私たちは急いで彼女に続いた。渡り終わるころ、並んで顔を見ながら“Can you speak English?”少し微笑みながら“Yes.”こうはっきりした答は日本人には中々できない。もじもじしながらせいぜい“a little”くらいだ。「会社員それとも学生?」「学生です。」と返ってきた。週休2日、土曜日の朝ちょっと散歩がてらに出てきたのだった。今回出会った若い女性達は服装、容貌から「日本人かな?」と惑う。以前は大体区分出来たのに大きい町ではそれが困難に思えた。

訪問した中学校でのアメリカ系黒人教師の英語の時間。そばの生徒に「先生の説明解った?」英語で聞いてみた。「・・・?」答がない。「君は何年生?」これにも戸惑った表情だった。まだ日本の中学生を凌駕してはいないようだ。しかし目の輝き、生き生きした顔と態度。それにいじめや不登校の生徒はないという。彼らが20代の青年になったら日本は追い越されてしまいかねない。大いに厳しく見つめ直さねばなるまい。

.....

瓦房店市を訪問して

大連には5回目の訪問であり、年々華やかになる都市中心部と、昔のままの農村部と格差がひらきつつも、市民の身なりはきれいになり、バス、タクシーも立派、トイレの臭いも減少し生活の向上が覗えます。瓦房店市での市政府や学校での熱烈歓迎振りには大変なものでありましたが、以前に比べ、中国の方々は、余裕が出てきている感じがします。

50年もの格差があるといわれたのは10年前、今では殆ど差異は感じられません。益々便利な世の中になれば、電力、燃料不足が心配です。

中国は何度行っても大陸的、友好的な懐の深さには、魅せられます。 「希望能再见到你」

.....

瓦房店市訪問想いつくまま

「你好」中国に入った「四声が違います」と日本語で返ってきた。外国語はむずかしい。挨拶ぐらい出来るようにと中国語講座に通って三年目になる。聞き取れない、しゃべれない。6~7回中国へ行っているうちに中国が大好きになって、習字をマネしようかと思ひ筆とすずりを買った。10年も前のことだろう。

だがむずかしい。少しずつ勉強しよう、また中国へ行こうと思っている。中国の発展はすばらしい。最初に訪ねたのは何年前だろうか。同じ商工会議所で行ったのが最初だった。あの広い中国は追いつくだろうと思って帰ってきた。追いつき追いこせのスローガンは一樣に並んだらう。2008年にオリンピックが開催される中国はトップに出るのは間違いないだろう。瓦房店市の工場団地、商業開発は目を見張るばかりだ。大連瓦房店市の今後のすばらしい発展と天童市の交流が益々深いきずなとなることを最後に祈りながら。今回の交流を作ってくれたミクロの後藤社長に感謝を申し上げ、またの機会を待ちながら想いつくまま書きました。友誼長存

中国瓦房店訪問団に参加して

小生、最初に訪中したのは15年前位に広州地区、次が深川、3年前北京、大連、瓦房店、そして今回で4回目となる。

広州での農業情景は、人畜労力主体、長閑さがうかがわれた。現状日本より50年は遅れているのかなあと思われた。また飛ぶ鳥見られない、すずめ、カエル、ヘビなどは食料にしているとかビックリ。さらに農作業着は戦後を思い浮ばされた。

ところが、10年経た北京、大連での若い女性の服装は東京と同じ、目を疑う程の様変わり、近代化が進んでいることを立証させられた。

さて、瓦房店訪問、温かさを感じる心からのもてなしに恐れいった。翌日、教育事業研修、小・中学校訪問、文章で書き表わされない熱烈なる歓迎により感動の涙が流れた。授業も想像以上の高度な内容と真剣な眼差し、世界をリードする若者になるだろう。

土屋組合長が挨拶する。人間生きて行く上で、空気1分、水1日、食料3日間吸わず、飲まず、食べずにいられないと同じように、教育は重要であるという認識から、瓦房店市の辺地に小学校を寄贈するという凡人には考えられないすばらしい発想と実行に敬意を表したい。

また、瓦房店市の長期的展望計画にある工業・商業特区を見学することができた。世界の企業誘致戦略、規模の偉大さ、労働力の創出、富を持たらし市の拡大に結びつける施策にも感服した。

おわりに、友好都市として発展する姿を再び訪問したいものである。人生の1ページとなる訪問団に参加させて頂き感謝します。

.....

「国家繁栄は教育にあり」

中国旅行は今回で5度目ですが、このたびの訪問ほど有意義で深い感銘をうけたことはありません。

第一に遠藤市長が団長であった為、すべての面で特別の歓迎と接待を受けたこと。第二にミクロの後藤社長ご夫妻が、あらゆることをご配慮下さったお陰で、実に快適な旅行が出来たこと。第三に土屋完治氏が多額の浄財を寄附されたため、希望小学校で二度と体験出来ない感動的な場に参加したことです。

青島の景観の素晴らしさと、ビール旨さ。大連の歴史と中山広場・天津街など、瓦房店市訪問行事の数々、市政府幹部との懇親会など、オリンピックに向けての建設ラッシュには驚きました。

第四初級中学校での授業風景で、その熱心さに感心しました。教育目標が、崇徳・博学・創新・求实ということでした。英語・音楽・書道に力を入れているとのこと。国家繁栄のもとには教育にありと実感した次第です。

熱烈な歓迎を受けて

三日目、団長の遠藤市長・副団長の土屋組合長と合流し、瓦房店市に入ってから翌日の出るまでパトカーの先導に驚く。まずミクロの天峰食品で社員が両側に大勢整列し花火と共に熱烈歓迎を受ける。夕刻瓦房店市庁舎で盛大な歓迎を受けながら両市長のご挨拶を頂く。翌日、第四中学校と希望小学校を訪問。両校共にグラウンドに生徒と先生が、校門から校舎まで並んで歓迎の大声を出しながら造花を振っての歓迎であった。四中は個性を引き出す教育と語学は、外国からの先生を招聘し力点を置いていた。特に「開発区希望小学校」では、五十数年前から別の場所にあり長年修繕されず危険な状態だったと聞く。土屋名誉校長が、熱意を持った教育振興の気持ちから今の学校を建設した事に、強く心を打たれ感動し、胸の高鳴りを抑えきれず感激で一杯でした。また目の当たりにした、至る所が建設ラッシュで、侮れない今後大きく発展する国と実感した次第。両市は勿論、両国の友好関係が未来に向けて、更に一層深まることを願って止まない。

.....

感激“熱烈歓迎”

今回、瓦房店市友好都市第1回の訪問団に参加させていただき、一番感激したことは、学校や事業所の皆さんが手に手に花をもち全員で熱烈な歓迎をしてくれたことでした。これまで友好の土壌づくりにはいろいろな方々の並々ならぬ努力や苦勞があったことだろうなと考えますと感激が倍加いたしました。国際交流の更なる発展を祈るばかりです。

まず目を見張ったのは、中国東北部の大都市大連です。中山広場を中心にして八方に広がる市街地、昔の名残をとどめる街並と調和した超近代ビルなどすばらしい景観。また、青島・瓦房店など行く先々が、開発区として原野が工業地区へ変貌しようとしており、道路などのインフラ整備に沸き立っている様子を見て中国発展の恐ろしさを感じました。土地・労働人口・優遇税制などをてこにして外資導入にやっきになっている行政当局の姿などその勢いを肌で感じることもできました。

中国の行く末を思う時、日本と同様、子供の未来はどうなるのだろうか。教育も受験重視の風潮が生まれているとか、教育も経済優先の思想にはかなわないーこうあってはならないのだがーどこの国も同じことだと痛感した次第です。有り難うございました。

.....